

予防接種マニュアル

令和2年（2020年）12月
広島市健康福祉局保健部健康推進課

目 次

第 1 章 予防接種全般の注意事項

1	対象者について	．．．	4
2	接種間隔について	．．．	8
3	副反応報告について	．．．	11

第 2 章 各ワクチンの接種方法（定期予防接種）

1	ヒブワクチン	．．．	13
2	小児用肺炎球菌ワクチン	．．．	15
3	4種混合・3種混合・2種混合ワクチン	．．．	17
4	不活化ポリオワクチン	．．．	19
5	BCGワクチン	．．．	21
6	麻しん風しんワクチン	．．．	22
7	日本脳炎ワクチン	．．．	23
8	子宮頸がん予防ワクチン	．．．	27
9	インフルエンザワクチン	．．．	28
10	水痘ワクチン	．．．	29
11	高齢者肺炎球菌ワクチン	．．．	30
12	B型肝炎ワクチン	．．．	33
13	ロタウイルスワクチン	．．．	34

第 1 章 予防接種全般の注意事項

【予防接種法に基づく定期予防接種について】

予防接種法に基づく、定期予防接種とするためには、① 予防接種法施行令に定められた年齢 と ② 予防接種実施規則に定められた接種間隔 の両方を満たす必要があります。

それ以外の接種は、予防接種法に基づかない接種（以下、「任意接種」という。）として取り扱われ、予防接種にかかる費用は、全額個人負担となります。

また、その接種で健康被害が生じた場合は、法に基づく救済を受けられないことがあり、その場合は、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構の医薬品副作用被害救済制度による補償を受けることとなりますが、予防接種法に比べて救済の額が少なくなります。

1 対象者について

(1) 予防接種法施行令に定められた対象年齢

対象疾病	定期の予防接種の対象者	
B型肝炎	生後1歳に至るまでの間にある者 ただし、平成28年4月1日以後に生まれた者に限る。	
ロタウイルス	ロタリックス	出生6週0日後から出生24週0日まで
	ロタテック	出生6週0日後から出生32週0日まで
ヒブ感染症	生後2月から生後60月に至るまでの間にある者	
小児の肺炎球菌感染症		
ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ	1期	生後3月から生後90月に至るまでの間にある者
ジフテリア・破傷風	2期	11歳以上13歳未満の者
ポリオ（急性灰白髄炎）	生後3月から生後90月に至るまでの間にある者	
結核（BCG）	生後1歳に至るまでの間にある者	
麻しん・風しん	1期	生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
	2期	5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者
水痘	生後12月から生後36月に至るまでの間にある者	
日本脳炎	1期	生後6月から生後90月に至るまでの間にある者
	2期	9歳以上13歳未満の者
	特例	4歳以上20歳未満の者（対象者：平成7年4月2日から平成19年4月1日までの間に生まれた者）
子宮頸がん （ヒトパピローマウイルス感染症）	12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子	
インフルエンザ	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の者 60歳以上65歳未満の者であって、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有し、身体障害者手帳1級に相当する者 	
高齢者の肺炎球菌感染症	<ul style="list-style-type: none"> 65歳の者（平成31年度から実施） 60歳以上65歳未満の者であって、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有し、身体障害者手帳1級に相当する者 	
	【令和2年度から令和5年度までの経過措置】 <ul style="list-style-type: none"> 年度内に65、70、75、80、85、90、95、100歳を迎える者 	

※ 長期療養を必要とする病気にかかったことにより、対象年齢内に定期接種を受けられなかったと認められるもの（インフルエンザ予防接種を除く）については、当該特別の事情がなくなった日から起算して2年（高齢者肺炎球菌ワクチンは1年）を経過する日までの間、定期接種を受けられます。

ただし、4種混合ワクチンについては15歳、結核（BCG）については4歳、ヒブ感染症については10歳、小児の肺炎球菌感染症については6歳に達するまで（誕生日の前日まで）の間において接種を受けられます。

(2) 年齢の解釈

[R2.12改訂]

予防接種法における年齢の計算は、「年齢計算ニ関スル法律」と「民法第143条第2項」により、誕生日の前日に1歳を加える（応当日の前日に満了する）ように定められており、次のとおり運用します。令和2年10月1日、ロタウイルスワクチン定期接種化に伴い、接種時期について新たな表現が追加されています。

【定期の予防接種における対象者の解釈について（平成26年3月11日厚生労働省健康局結核感染症課発出）、定期接種実施要領改正（令和2年10月1日施行）】

- 「出生〇週●日後」…誕生日の翌日を出生0週1日後として、出生〇週●日後に応答する日の当日のことです。
- 「〇歳に至った日」…誕生日の前日24時に年をとると考えるため、起算日（誕生日）に応答する日の前日のことです。
- 「〇歳以上」…誕生日の前日24時に年をとると考えられますが、真夜中の24時に接種することは通常想定されないため、日中でも接種できるよう、起算日（誕生日）に応答する日の前日からが対象になります。
- 「〇歳に至るまで」…誕生日の前日24時に年をとると考えるため、起算日（誕生日）に応答する日の前日までが対象になります。
- 「〇歳未満」…誕生日の前日24時に年をとると考えるため、起算日（誕生日）に応答する日の前日までが対象になります。

- ① 「出生〇週●日後から出生△週▲日後までの間にある者」の場合は、出生〇週●日後に応答する日の当日から、出生△週▲日後に応答する日の当日までが対象内です。

具体例 ロタウイルスワクチン（ロタリックス）

ロタウイルスワクチン（ロタリックス）における「出生6週0日後から出生24週0日後まで」とは、令和2年11月1日に生まれた者の場合、令和2年12月13日（出生6週0日後）から令和3年4月18日（出生24週0日後）までとなります。

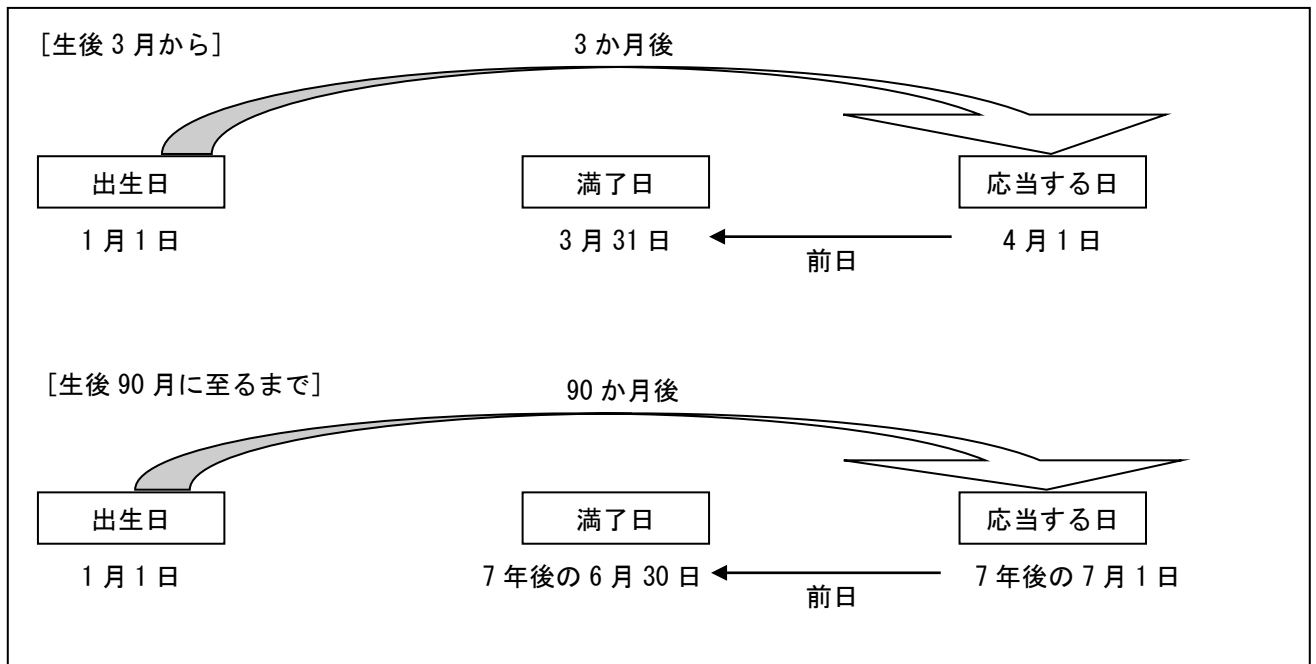
・ 2020年11月1日(日)出生の場合；出生6週0日後 = 12月13日（日）

2020年11月							2020年12月									
誕生日	日	月	火	水	木	金	土			1	2	3	4	5		
	1	2	3	4	5	6	7			4w2d	4w3d	4w4d	4w5d	4w6d		
	0w0d	0w1d	0w2d	0w3d	0w4d	0w5d	0w6d			6	7	8	9	10	11	12
1	8	9	10	11	12	13	14	5	5w0d	5w1d	5w2d	5w3d	5w4d	5w5d	5w6d	
2	15	16	17	18	19	20	21	6	13	14	15	16	17	18	19	
3	22	23	24	25	26	27	28		6w0d	6w1d	6w2d	6w3d	6w4d	6w5d	6w6d	
4	29	30							20	21	22	23	24	25	26	
	4w0d	4w1d							7w0d	7w1d	7w2d	7w3d	7w4d	7w5d	7w6d	
									27	28	29	30	31			
									8w0d	8w1d	8w2d	8w3d	8w4d			

- ② 「生後△月から生後○月に至るまでの間にある者」の場合は、起算日（出生日）に応当する日（出生日の△月後）の前日から、起算日（出生日）に応当する日（出生日の○月後）の前日が対象内です。

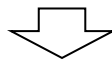
具体例1 起算日に応当する日があるとき

DPT-IPV（4種混合）1期における「生後3月から生後90月に至るまで」とは、平成25年1月1日に生まれた者の場合、
平成25年3月31日（生後3か月となる）から令和2年6月30日（生後90か月となる）までとなります。

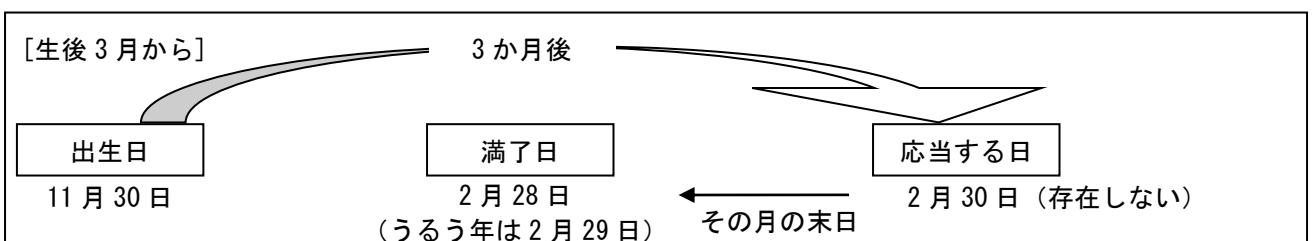


具体例2 起算日に応当する日がないとき

11月30日に生まれた者は、ちょうど3か月後の30日（2月30日）がありません。当該月に応当日がない場合は、当該月の末日（2月28日、うるう年で2月29日まである年は2月29日）が満了日となります。



DPT-IPV（4種混合）1期における「生後3月から生後90月に至るまで」とは、
11月30日に生まれた者の場合、
 （2月28日までの年は、2月28日から
2月29日まである年は、2月29日から）
 8年後の5月29日まで となります。



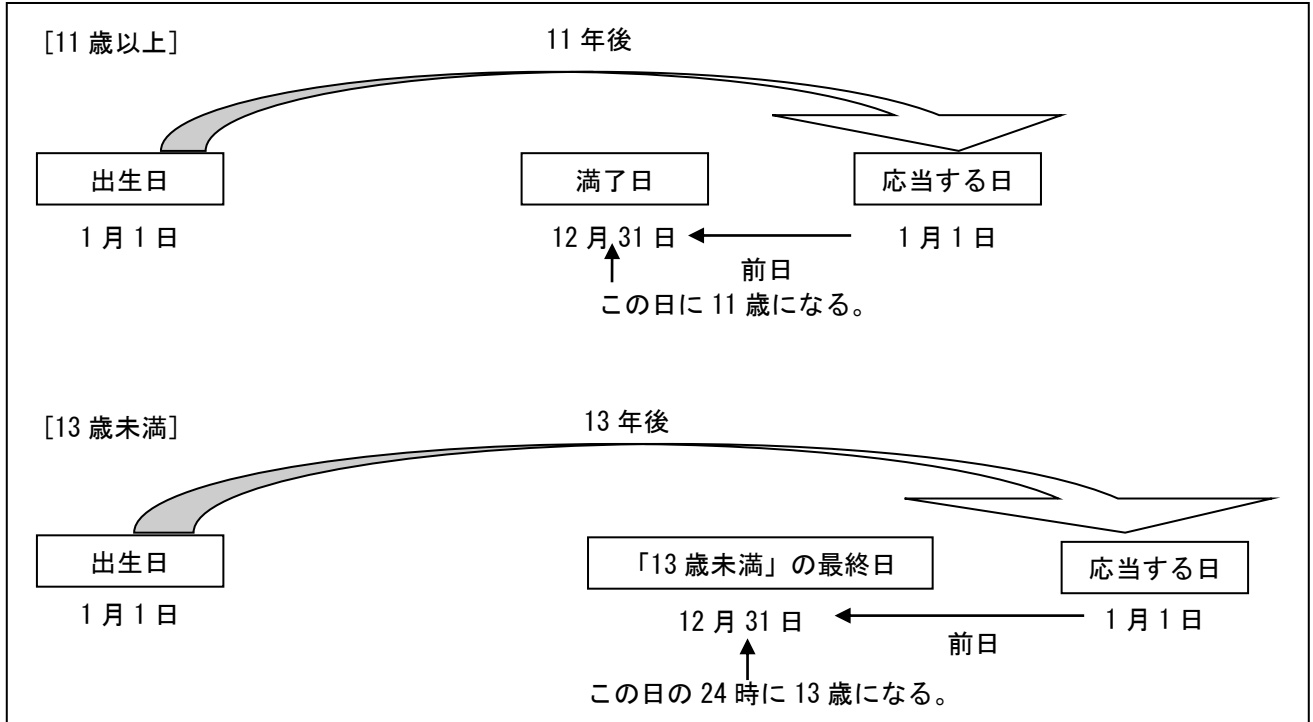
- ③ 「△歳以上○歳未満の者」の場合は、起算日（出生日）に相当する日（△歳の誕生日）の前日から、起算日（出生日）に相当する日（○歳の誕生日）の前日が対象内です。

具体例 1 起算日に相当する日があるとき

D T2 期における「11歳以上 13歳未満」とは、

平成 21 年 1 月 1 日に生まれた者の場合、

令和元年 12 月 31 日（11 年後の 1 月 1 日の前日）から令和 3 年 12 月 31 日（13 年後の 1 月 1 日の前日）まで となります。

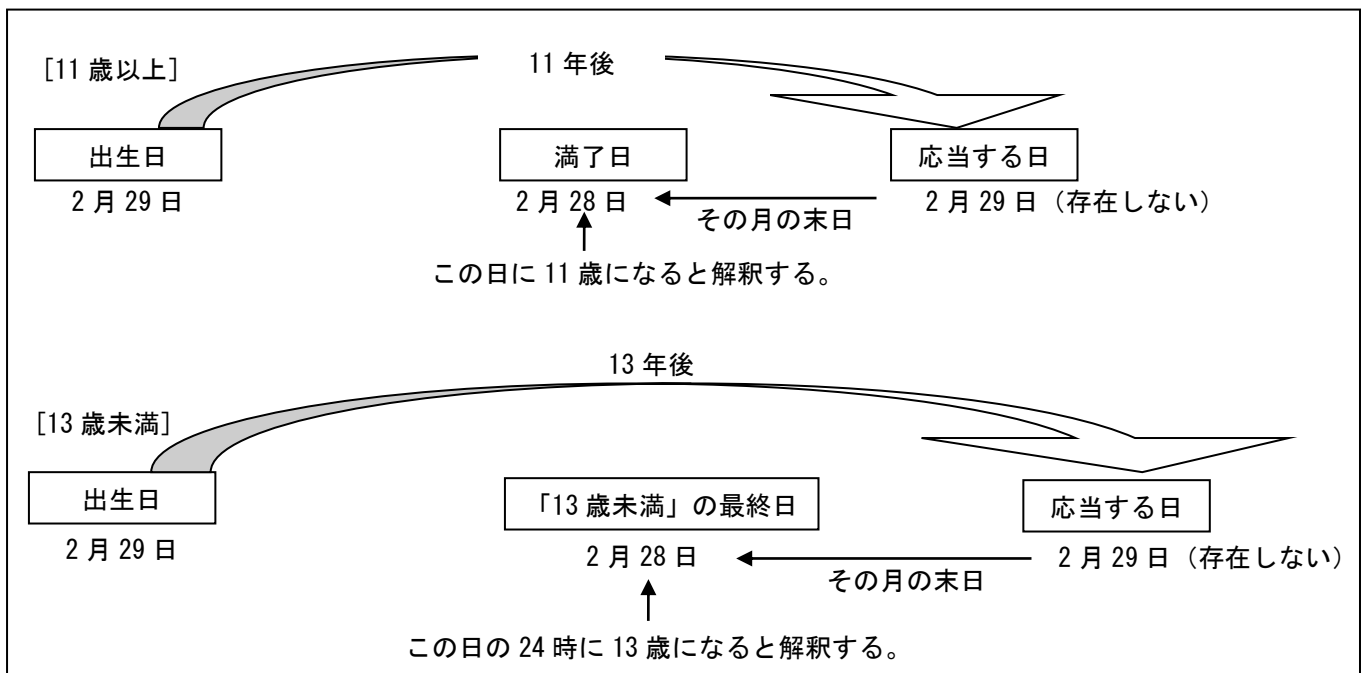


具体例 2 起算日に相当する日がないとき

D T2 期における「11歳以上 13歳未満」とは、

平成 20 年 2 月 29 日に生まれた者の場合、

平成 31 年 2 月 28 日（11 年後の 2 月末日）から令和 3 年 2 月 28 日（13 年後の 2 月末日）まで となります。



2 接種間隔について

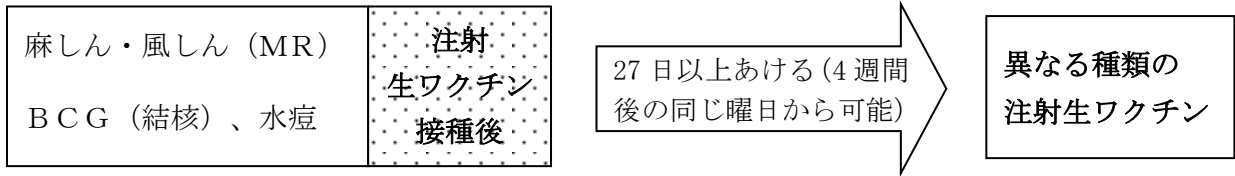
(1) 予防接種実施規則に定められた接種間隔（令和2年10月1日改正）

① 各予防接種の接種間隔

対象疾病		定期の予防接種の対象者	
B型肝炎		27日以上の間隔をおいて2回接種した後、1回目から139日以上の間隔をおいて1回接種	
ロタウイルス ワクチン	ロタリックス（1価）	27日以上の間隔をおいて2回	
	ロタテック（5価）	27日以上の間隔をおいて3回	
ジフテリア・百日せき・ 破傷風・ポリオ	1期初回	20日以上の間隔をおいて3回	
	1期追加	1期初回接種終了後、6月以上の間隔をおく	
水痘		3月以上の間隔をおいて2回	
日本脳炎	1期初回	6日以上の間隔をおいて2回	
	1期追加	1期初回接種終了後、6月以上の間隔をおく	
子宮頸がん 予防ワクチン	サーバリックス（2価）	1月以上の間隔をおいて2回接種した後、1回目から5月以上かつ2回目から2月半以上の間隔をおいて1回接種	
	ガーダシル（4価）	1月以上の間隔をおいて2回接種した後、3月以上の間隔をおいて1回接種	

ワクチン	初回接種開始年齢	接種方法	
ヒブ ワクチン	生後2月から生後7 月に至るまでの間 [標準的な接種方法]	初回接種	生後12月に至るまでの間に、27日（医師が必要と認めるときは20日）以上の間隔をおいて3回接種。
		追加接種	初回接種終了後7月以上の間隔をおいて1回接種。 ただし、初回接種を終了せずに生後12月を超えた場合は、初回接種に係る最後の注射終了後27日（医師が必要と認めるときは20日）以上の間隔をおいて1回接種。
	生後7月に至った日 の翌日から生後12月 に至るまでの間	初回接種	生後12月に至るまでの間に、27日（医師が必要と認めるときは20日）以上の間隔をおいて2回接種。
		追加接種	初回接種終了後7月以上の間隔をおいて1回接種。 ただし、初回接種を終了せずに生後12月を超えた場合は、初回接種に係る最後の注射終了後27日（医師が必要と認めるときは20日）以上の間隔をおいて1回接種。
小児用 肺炎球菌 ワクチン	生後2月から生後7 月に至るまでの間 [標準的な接種方法]	初回接種	生後24月に至るまでの間に、27日間以上の間隔をおいて3回接種。 ただし、生後12月を超えて2回目の注射を行った場合は、3回目の注射を行わない。
		追加接種	初回接種に係る最後の接種後、60日間以上の間隔をおいた後であって、生後12月に至った日以降に1回接種。
	生後7月に至った日 の翌日から生後12月 に至るまでの間	初回接種	生後24月に至るまでの間に、27日間以上の間隔をおいて2回接種。
		追加接種	初回接種に係る最後の接種後、60日間以上の間隔をおいた後であって、生後12月に至った日以降に1回接種。
	生後12月に至った日 の翌日から生後24月 に至るまでの間	60日間以上の間隔をおいて2回接種。	

② 異なる種類のワクチンとの接種間隔



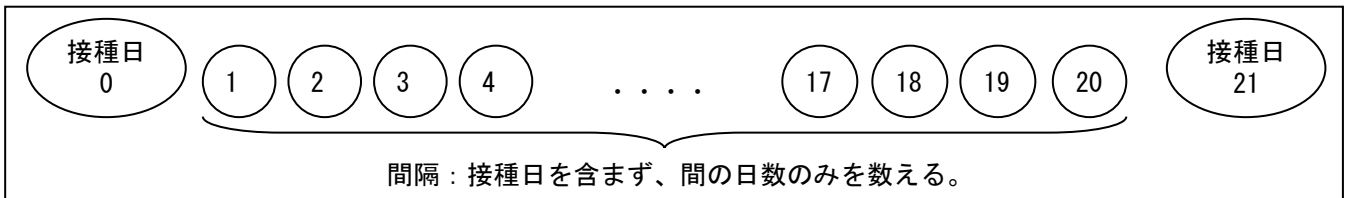
※ 不活化ワクチン、経口生ワクチンについては、異なる種類のワクチンとの接種間隔の制限はありません。

(2) 間隔の解釈

民法の解釈によって計算します。

接種間隔は、接種した次の日から起算した日数を数えます。

「20日の間隔をおく」とは、以下のように考えます。



具体例

① 「〇日の間隔をおいて」の考え方

DPT-I PV (4種混合) の初回接種の「20日以上の間隔をおいて」とは、火曜日に接種した場合は3週間後の同じ曜日 (火曜日) 以降に接種します。

		接種日						
週	曜日	日	月	火	水	木	金	土
0				0	1	2	3	4
1		5	6	7	8	9	10	11
2		12	13	14	15	16	17	18
3		19	20	21	22	23	24	25
4		26	27	28	29	30	31	32
5		33	34	35	36	37	38	39
6		40	41	42	43	44	45	46
7		47	48	49	50	51	52	53
8		54	55	56	57	58	59	60

20日以上の間隔：
3週間後の同じ曜日以降に接種

② 「〇月の間隔において」の考え方

子宮頸がん予防ワクチン（サーバリックス）の追加接種の「**1回目から5月以上かつ2回目から2月半以上の間隔において**」とは、1回目の接種の**5か月後の同日以降かつ**、2回目の接種から**2か月半以降**に3回目を接種します。

※ 半月の数は月によって異なります。2か月後が31日の月は16日後、30日の月は15日後、29日の月は15日後、28日の月は14日後と考えます。

【例】 1回目を3月15日に、2回目を5月1日に接種した場合、**1回目の5か月後は8月15日、2回目の2か月半後は7月17日**なので、2つの条件をともに満たす**8月15日以降に接種**します。

③ 標準的な（望ましい）接種間隔

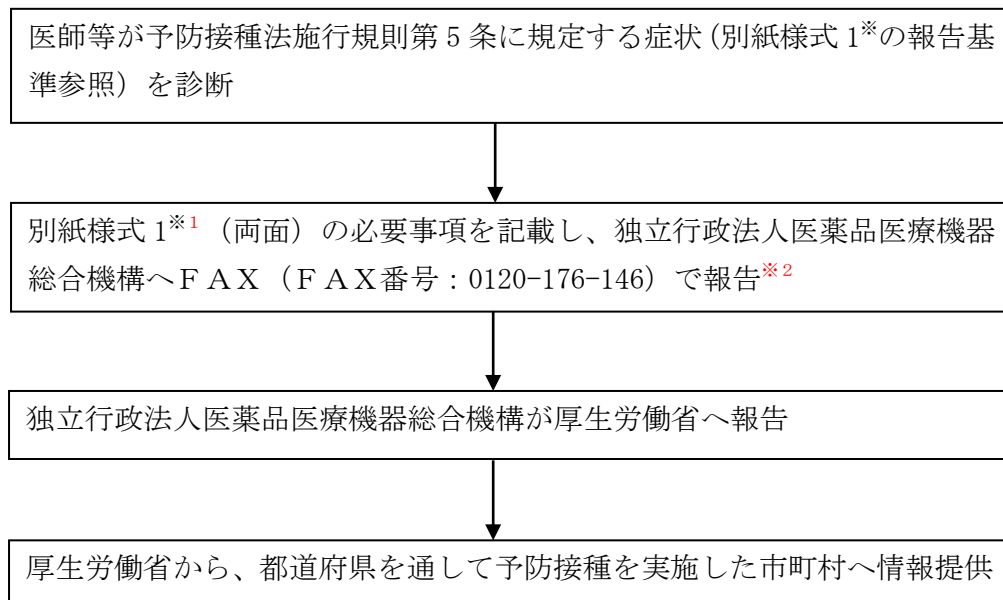
予防接種実施規則上は接種間隔の上限の撤廃等がなされましたが、定期接種実施要領には標準的な（望ましい）接種間隔として、従来どおりの上限等が示されています。

標準的な接種間隔は、必ず守らなければならないというものではありませんが、有効性・安全性の観点から、ワクチンごとに最も適切と考えられているものです。早期に抗体を獲得することが重要であるため、可能な限り標準的な接種間隔で接種してください。

3 副反応報告について

予防接種法第 12 条において、医師等は、定期予防接種を受けた者が、当該接種を受けたことによるものと疑われる症状として厚生労働省令で定める症状を呈していることを知ったときは、速やかに厚生労働大臣に報告することが義務付けられています。

【副反応報告の流れ】



なお、この報告は、予防接種健康被害救済制度と直接結びつくものではありません。救済措置の給付を申請する場合には、保護者等により、別途、必要書類の提出が必要で、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、給付が行われます。

※1 副反応報告書別紙様式 1 については、広島市ホームページに掲載しています。

また、その症状が急性散在性脳脊髄炎 (ADEM)、ギラン・バレ症候群と疑われる場合は、それぞれ急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) 調査票、ギラン・バレ症候群 (GBS) 調査票も作成して送付してください。

※2 副反応報告書の作成に当たっては、「予防接種後副反応疑い報告書」入力アプリ (国立感染症研究所ホームページ) を利用することができます。

第2章 ワクチンの接種方法

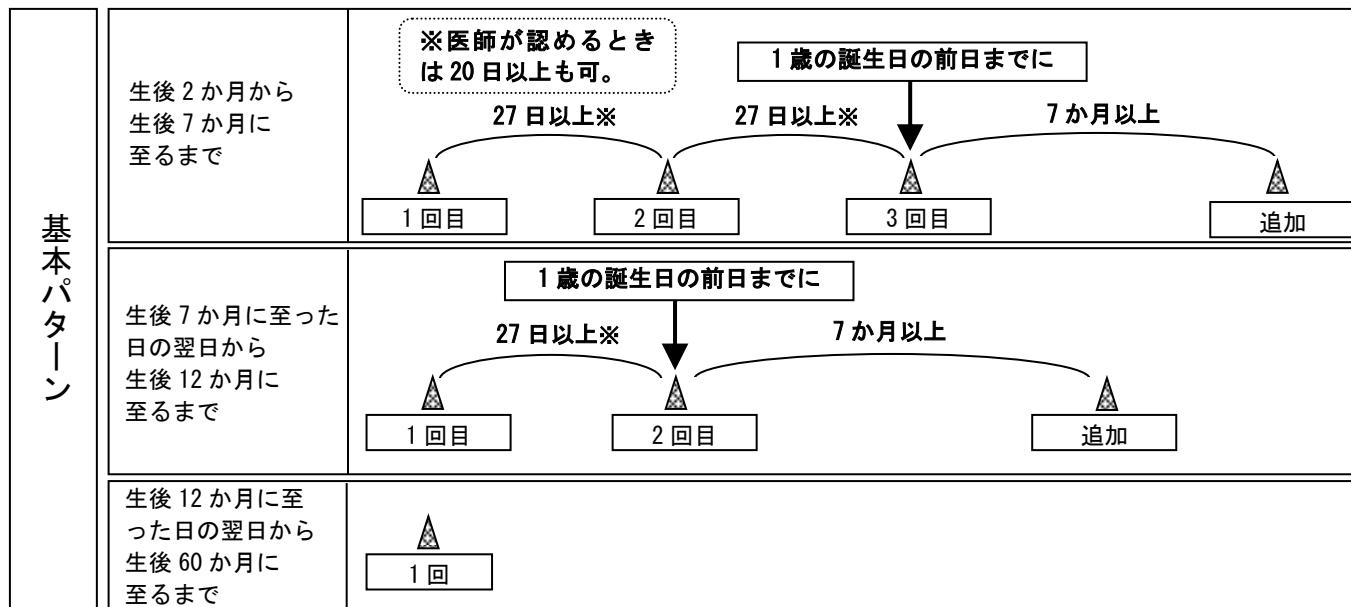
- 定期予防接種 -

1 ヒブワクチン

(1) 基本の接種方法

不活化

初回接種開始年齢 接種方法・接種間隔

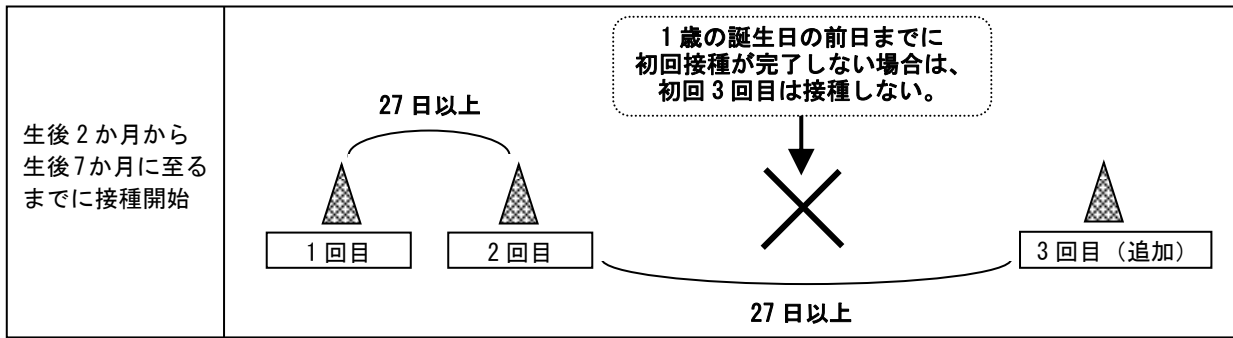


年齢	生後2か月～60か月に至るまで
ワクチン	ヒブワクチン (0.5 mℓ)

対象者	初回接種開始時期	予防接種実施規則（以下、「実施規則」）で定められた接種間隔と回数	標準的な（望ましい）接種時期・方法
生後2か月以上、生後60か月（5歳の誕生日の前日）に至るまで	生後2か月から生後7か月に至るまで	初回： <u>生後12月に至るまでの間に</u> 、27日（医師が必要と認めた場合は20日）以上の間隔をおいて3回接種。 追加：初回接種終了後、7か月以上の間隔をおいて1回接種。ただし、初回接種を終了せずに生後12月を超えた場合は、初回接種に係る最後の注射終了後27日（医師が必要と認めるときは20日）以上の間隔をおいて1回接種（P14参照）。	接種開始は、生後2か月から生後7か月に至るまで。 初回接種は、27日（医師が必要と認めた場合は20日）から56日までの間隔をおく。
	生後7か月に至った日の翌日から生後12か月に至るまで	初回： <u>生後12月に至るまでの間に</u> 、27日（医師が必要と認めた場合は20日）以上の間隔をおいて2回接種。 追加：初回接種終了後、7か月以上の間隔をおいて1回接種。ただし、初回接種を終了せずに生後12月を超えた場合は、初回接種に係る最後の注射終了後27日（医師が必要と認めるときは20日）以上の間隔をおいて1回接種。	追加接種は、初回接種終了後、7か月から13か月までの間隔をおく。
	生後12か月に至った日の翌日から生後60か月に至るまで	1回接種。	

(2) 疑義が生じやすい事例

生後 12 か月に至るまでに初回接種を終了できなかった場合



- ・ 初回接種を生後 12 か月に至るまでに完了できなかった場合は、前回接種から 27 日（医師が必要と認めるときは 20 日）以上の間隔をおいて 1 回接種し、接種完了とします。（初回接種の一部をとばして追加接種をします。）

● 接種券

- ・ 医療機関設置又は母子健康手帳別冊（平成 25 年 7 月交付分から）に添付しています。
- ・ 接種券は、これまでの本人の接種回数（自費での接種、助成制度での接種を含む）の券を使用してください。

● 予診票

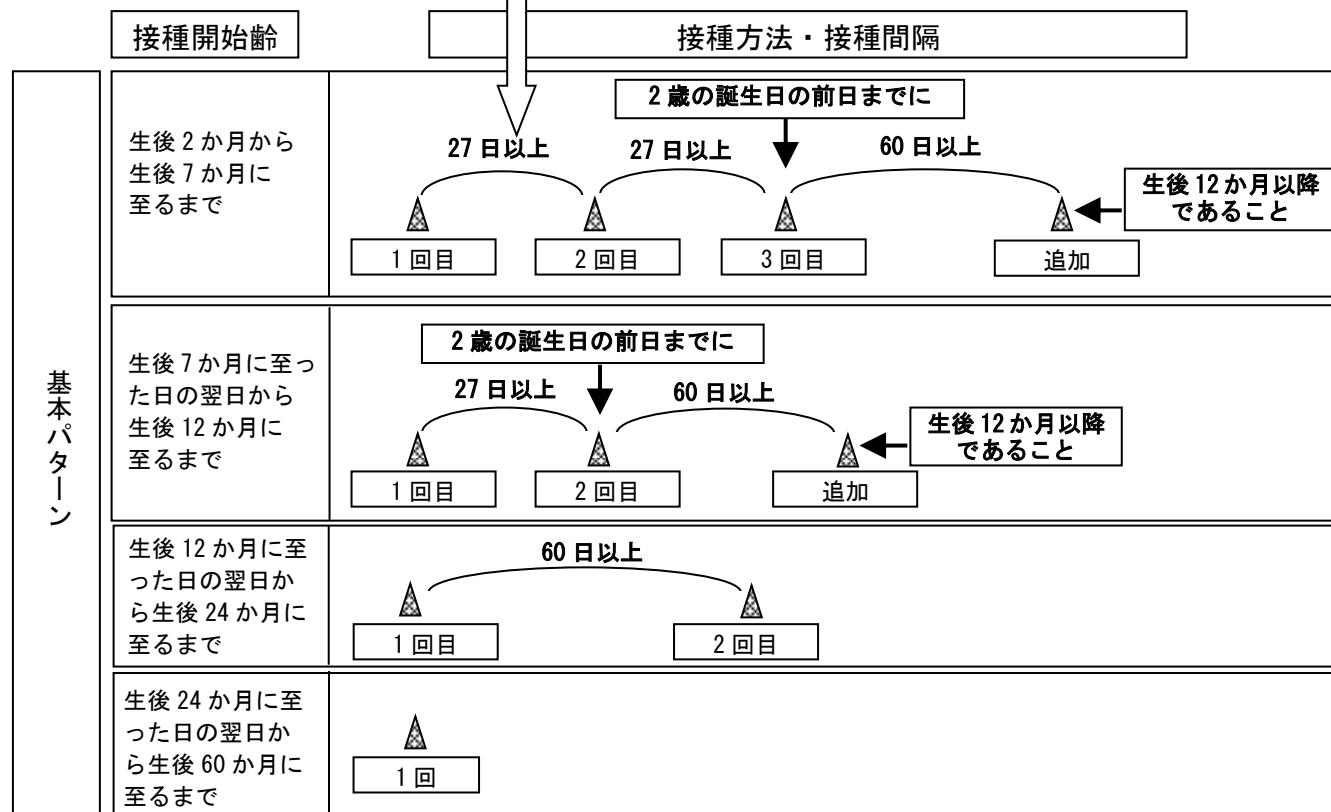
- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）

2 小児用肺炎球菌ワクチン（13 価）

(1) 基本の接種方法

(注意！！)
小児用肺炎球菌ワクチンは、ヒブワクチンや4種混合ワクチンと異なり、20～26日の間隔では接種できません。

不活化

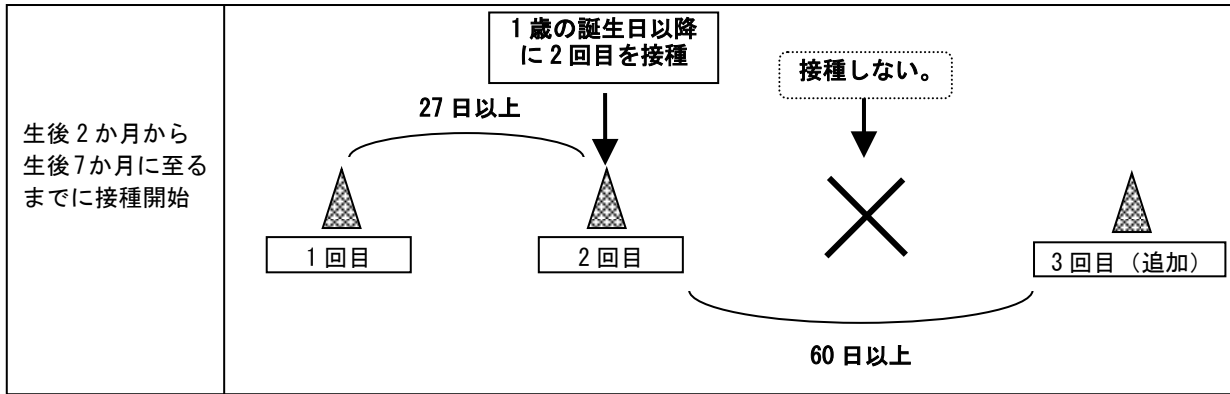


年齢	生後2か月～60か月に至るまで
ワクチン	小児用肺炎球菌ワクチン（0.5 mL）

対象者	接種開始時期	実施規則で定められた接種間隔と回数	標準的な（望ましい）接種時期・方法
生後2か月以上、生後60か月（5歳の誕生日の前日）に至るまで	生後2か月から生後7か月に至るまで	初回：生後24月に至るまでの間に、27日間以上の間隔をおいて3回接種。 ただし、生後12か月を超えて2回目を接種した場合は、3回目を接種しない。（P16参照） 追加：初回接種終了後、60日以上の間隔をおいた後であって、生後12か月に至った日以降に1回接種。	接種開始は、生後2か月から生後7か月に至るまで 追加接種は、生後12か月から生後15か月に至るまで
	生後7か月に至った日の翌日から生後12か月に至るまで	初回：生後24月に至るまでの間に、27日間以上の間隔をおいて2回接種。 追加：初回接種終了後、60日以上の間隔をおいた後であって、生後12か月に至った日以降に1回接種。	
	生後12か月に至った日の翌日から生後24か月に至るまで	60日間以上の間隔をおいて2回接種。	
	生後24か月に至った日の翌日から生後60か月に至るまで	1回接種。	

(2) 疑義が生じやすい事例

生後 12 か月までに 2 回目を接種できなかった場合



- ・ 生後 12 月を超えて初回 2 回目を接種した場合は、初回 3 回目を接種せず、前回の接種から 60 日以上の間隔をおいて、追加の 1 回を接種して接種完了とします。（初回接種の一部をとばして追加接種をします。）

● 接種券

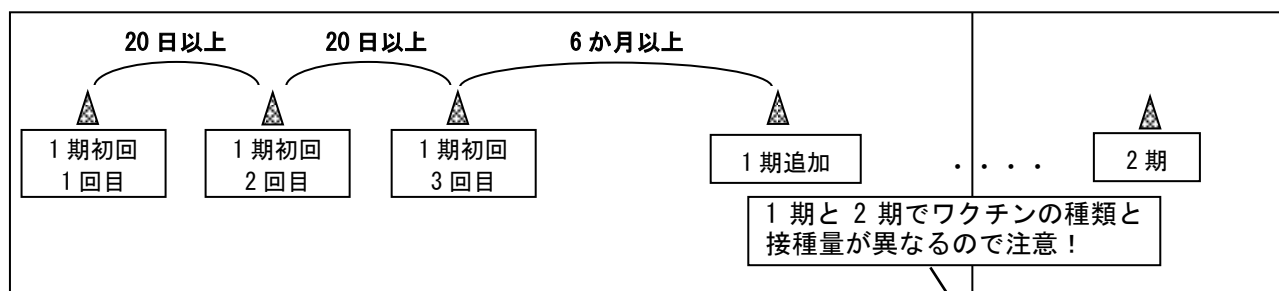
- ・ 医療機関設置又は母子健康手帳別冊（平成 25 年 7 月交付分から）に添付しています。
- ・ 接種券は、これまでの本人の接種回数（自費での接種、助成制度での接種を含む）の券を使用してください。

● 予診票

- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）

3 ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ（4種混合ワクチン）、 ジフテリア・百日せき・破傷風（3種混合ワクチン）、 ジフテリア・破傷風（2種混合ワクチン）

不活化



年齢	生後3か月～90か月（7歳6か月）に至るまで	11歳以上13歳未満		
ワクチン	DPT-IPV 4種混合ワクチン 0.5ml	又は DPT3種混合 ワクチン 0.5ml	又は DT2種混合 ワクチン 0.5ml	DT2種混合 ワクチン 0.1ml

対象疾病	区分	法施行令で定められた期間 (無料接種期間)	実施規則で定められた 接種間隔と回数	標準的な(望ましい) 接種時期・方法
ジフテリア 百日せき 破傷風 ポリオ	1期	生後3か月～90か月に至るまで (満90か月齢になる日の前日まで)	20日以上の間隔をおいて 3回	生後3か月から12か月に達するまでに、20日から56日までの間隔をおく
			1期初回(3回)終了後、 6か月以上の間隔をおいて1回	1期初回(3回)終了後、 1年から1年半までの間隔をおく
	2期	11歳以上13歳未満 (13歳の誕生日の前日まで)	1回	11歳

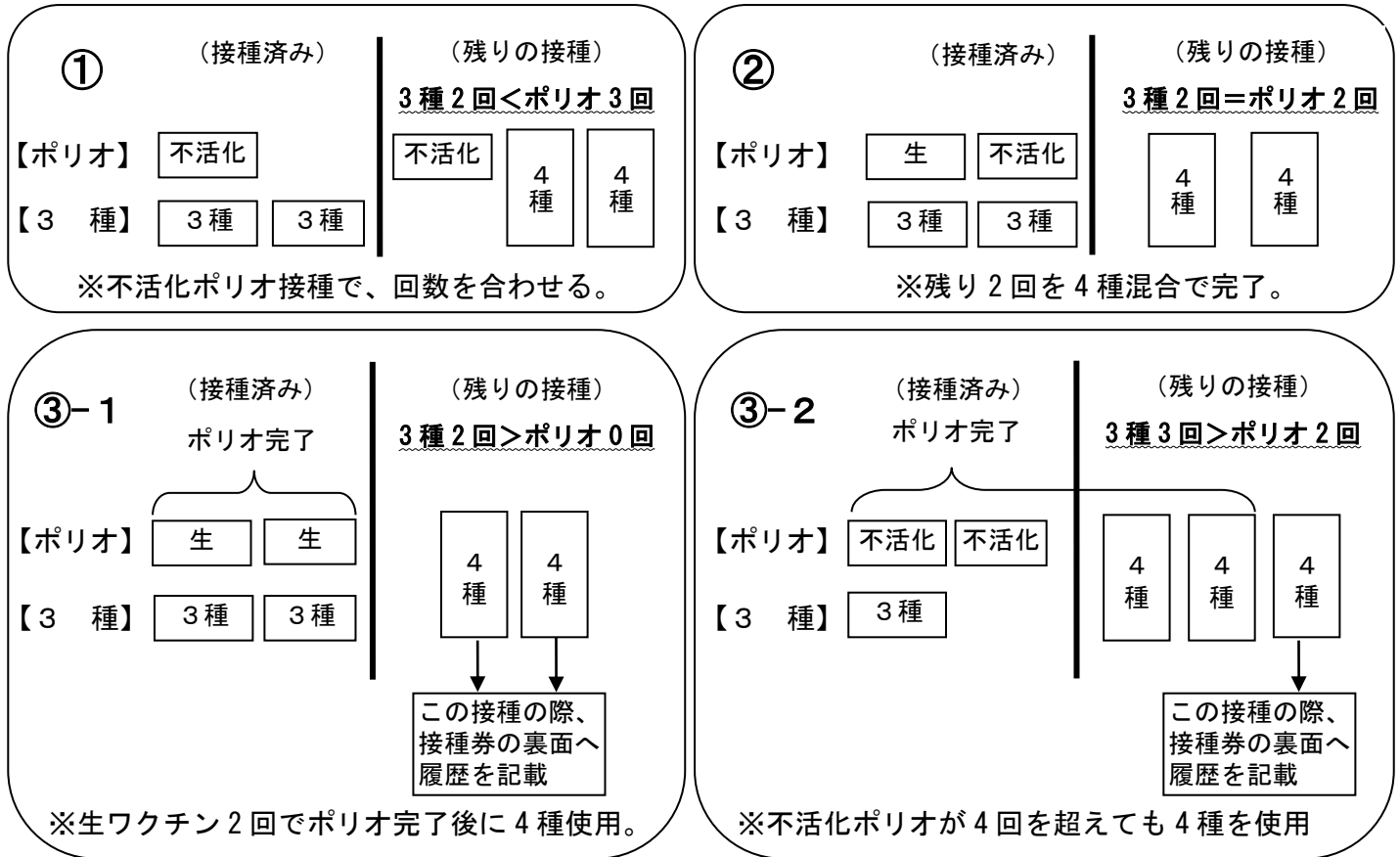
● 注意事項

ワクチンの選択

- 接種を開始する際は4種混合ワクチンを使用してください。
単独不活化ポリオワクチンを使用できるのは、ジフテリア・百日せき・破傷風の接種回数がポリオの接種回数を上回っている場合です。
- 4回を超える不活化ポリオワクチン接種後の有効性と安全性が確認されていることから、今後3種混合ワクチンの接種については、原則として4種混合ワクチンで対応してください。
接種方法については3種混合部分(ジフテリア・百日せき・破傷風)とポリオワクチン、それぞれの残り接種回数を比較して、次のとおりに接種してください。
(ポリオを生ワクチン2回で完了するケース以外は、どちらも4回ずつの接種が必要です)

- ①残りの接種回数が「3種部分<ポリオ」の場合
不活化ポリオワクチンで、接種回数を3種部分に合わせ、残りの接種回数を4種混合で完了
- ②残りの接種回数が「3種部分=ポリオ」の場合
残りの接種回数を4種混合で完了
- ③残りの接種回数が「3種部分>ポリオ」の場合
3種部分の残りの回数を4種混合で完了

【接種パターン例】（ご不明な点については、健康推進課へお問い合わせください。）



未承認不活化ポリオワクチンを接種していた場合

- 任意で「未承認不活化ポリオワクチン」を接種している人については、医師の判断と保護者の同意に基づき、接種済み回数を定期接種の一部とみなすことができますので、既定の回数（初回3回、追加1回）の残り回数の接種を行ってください。（定期接種とみなさずに既定の回数を接種することも可能です。）

百日せきにかかったことがある人への接種

- 百日せきにかかったことがある人は、1期の接種に「4種混合」、「3種混合」、「2種混合」のいずれのワクチンを使用することもできます。ただし、2種混合ワクチンを選択する場合は、保健センターで接種券の取り換えが必要です。

● 接種券

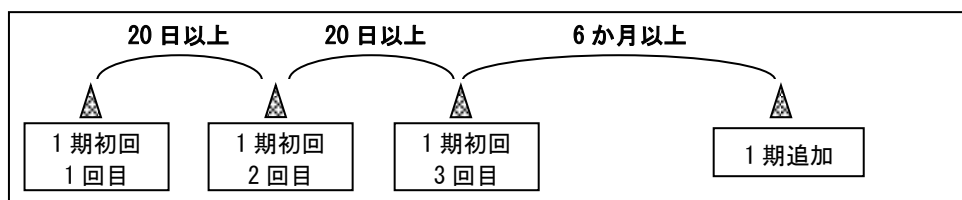
- 4種混合1期…医療機関に設置又は母子健康手帳別冊（平成24年11月交付分から）に添付しています。
- 3種混合1期…母子健康手帳別冊（平成24年10月交付分まで）に添付しています。
- 2種混合1期…希望者は保健センターに取りに行ってください。
- 2種混合2期…小学校6年生の5月頃、対象者（4月末時点の住民登録者）の住民登録している住所に送付します。
- 使用する接種券は、4種混合・3種混合・2種混合の接種合計回数に応じた接種券を使用します。（例：3種混合を1回接種済みで、4種混合を初めて接種する場合は2回目の接種券を使用。）
- 3種混合ワクチン、生ポリオワクチン、不活化ポリオワクチンの接種歴が含まれる場合は、委託料をお支払いするに当たり、これまでの全ての接種歴を確認する必要があります。
この場合は、お手数ですが、接種券裏面へ、これまでの3種混合ワクチン、4種混合ワクチン、生ポリオワクチン、不活化ポリオワクチンの接種歴を記載していただきますようお願いします。

● 予診票

- 1期分は医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）
- 2期分は対象者の住民登録している住所に送付します。

4 単独不活化ポリオワクチン

不活化



年齢	生後3か月～90か月（7歳6か月）に至るまで
ワクチン	不活化ポリオワクチン0.5mℓ

対象疾病	区分	法施行令で定められた期間 (無料接種期間)	実施規則で定められた 接種間隔と回数	標準的な(望ましい) 接種時期・方法
ポリオ	初回	生後3か月～90か月に至るまで (満90か月齢になる日の前日まで)	20日以上の間隔をおいて 3回	生後3か月から12か月に達するまでに、20日から56日までの間隔をおく
	追加		1期初回(3回)終了後、 6か月以上の間隔をおいて1回	1期初回(3回)終了後、 1年から1年半までの間隔をおく

● 注意事項

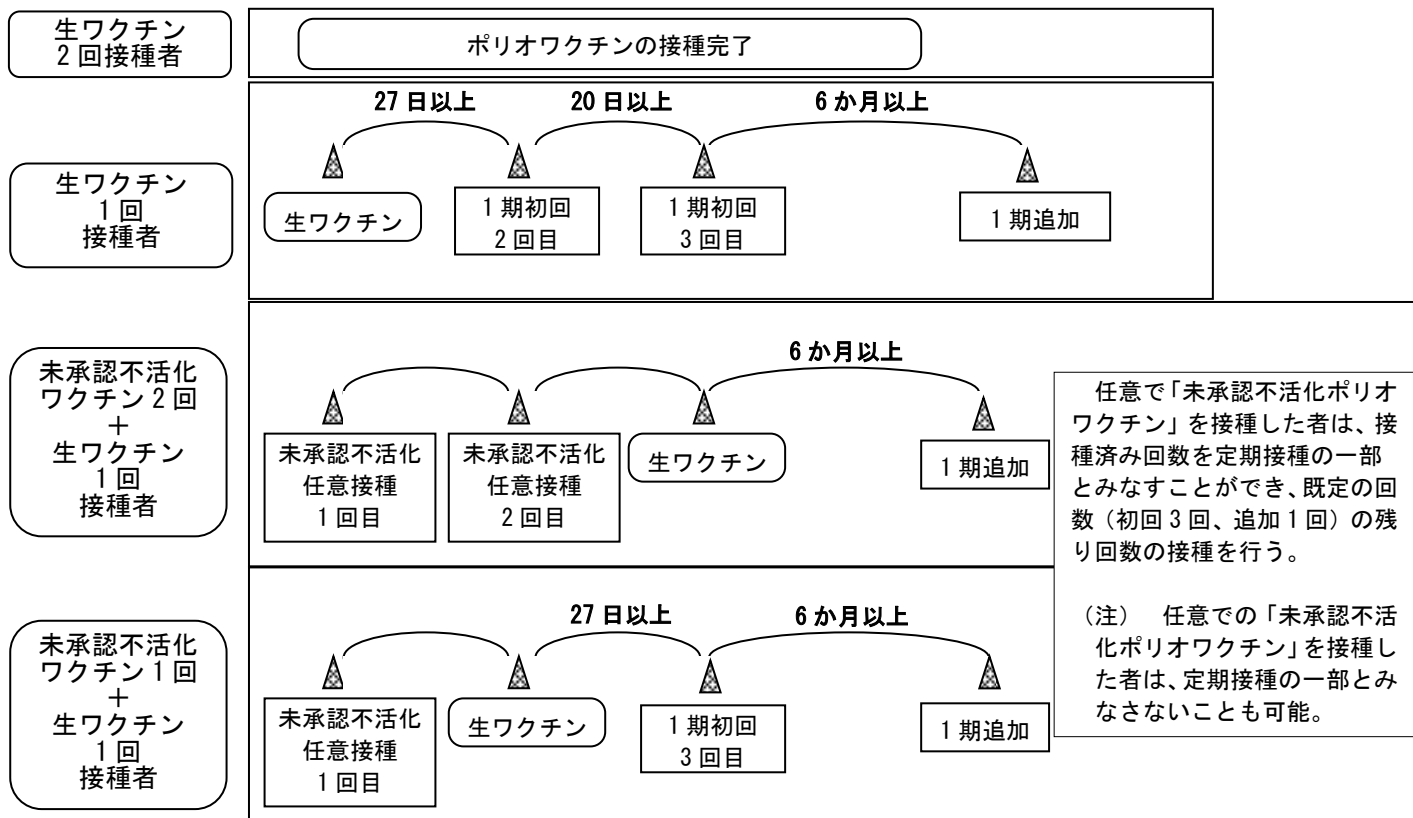
生ワクチン・4種混合ワクチンとの併用

- ・ 生ワクチン2回接種済み者は、不活化ワクチンの接種は不要です。ジフテリア・百日せき・破傷風の予防接種が未完了の場合は、4種混合ワクチンを使用できます。
- ・ 生ワクチン1回接種済み者は、残り3回不活化ワクチンを接種します。ジフテリア・百日せき・破傷風の予防接種が未完了の場合は、4種混合ワクチンを使用します。
- ・ 接種を開始する際は4種混合ワクチンを使用してください。
単独不活化ポリオワクチンを使用できるのは、ジフテリア・百日せき・破傷風の接種回数がポリオの接種回数を上回っている場合です。
- ・ 4種混合ワクチン、3種混合ワクチン、生ポリオワクチン、単独不活化ポリオワクチンを組み合わせて接種する場合、それぞれの規定の回数を超えないことが原則です。
- ・ 3種混合ワクチンは販売が終了していること、及び4回を超える不活化ポリオワクチン接種後の有効性と安全性が確認されていることから、今後3種混合ワクチンの接種については、4種混合ワクチンを使用してください。

※ 接種パターン例は、P18を参照してください。

● 接種券

- ・ 3種混合ワクチン、生ポリオワクチン、不活化ポリオワクチンの接種歴が含まれる場合は、委託料をお支払いするに当たり、これまでの全ての接種歴を確認する必要があります。
この場合は、お手数ですが、接種券裏面へ、これまでの3種混合ワクチン、4種混合ワクチン、生ポリオワクチン、不活化ポリオワクチンの接種歴を記載していただきますようお願いいたします。



● 接種券

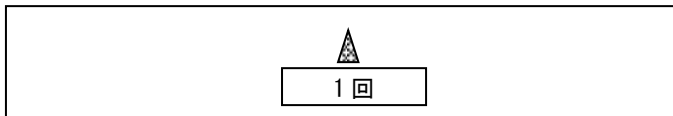
- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）

● 予診票

- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）

5 BCGワクチン

生



年齢	生後1歳に至るまで
ワクチン	BCGワクチン（管針法）

対象疾病	法施行令で定められた期間 （無料接種期間）	実施規則で定められた回数	標準的な（望ましい） 接種時期
結核	生後1歳に至るまで （1歳の誕生日の前日まで）	1回	生後5か月～8か月に達するまで

● 注意事項

接種時期

- 平成25年4月1日から、対象年齢が「生後1歳に至るまで」に、標準的な接種時期が「生後5か月～8か月に達するまで」に変更となりました※。

※ 早期にBCGを接種すると、副反応としてBCG骨髄炎が起こる頻度が高くなるため、接種時期が変更になりました。ただし、生まれてから1歳に至るまでの間であれば、接種することは可能です。

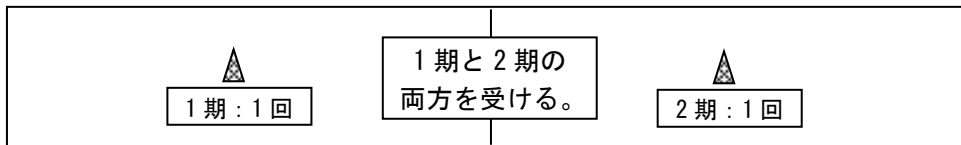
● 接種券

- 母子健康手帳別冊に添付しています。

● 予診票

- 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）

6 麻しん風しんワクチン



年齢	生後12か月～24か月に至るまで	小学校就学前1年間
ワクチン	MR混合ワクチン 0.5ml 又は 麻しんワクチン 0.5ml 又は 風しんワクチン 0.5ml	
対象疾病	区分	実施規則で定められた回数
麻しん 風しん	1期	1回
	2期	1回
		法施行令で定められた期間 (無料接種期間)
		生後12か月～24か月に至るまで (2歳の誕生日の前日まで)
		小学校就学前1年間 (4月1日～3月31日)

● 注意事項

ワクチンの選択

- ・ 麻しん又は風しんに罹患した者は、MR混合ワクチン、かかっていない方の単独ワクチンのいずれのワクチンも使用することができます。
- ・ 保護者の希望により麻しんワクチンと風しんワクチンと別々に接種をすることもできます。この場合、保健センターで、あとで受けるワクチン分の接種券の交付を受けてから接種を受けます。

● 接種券

- ・ 1期、2期ともに、母子健康手帳別冊に添付しています。

● 予診票

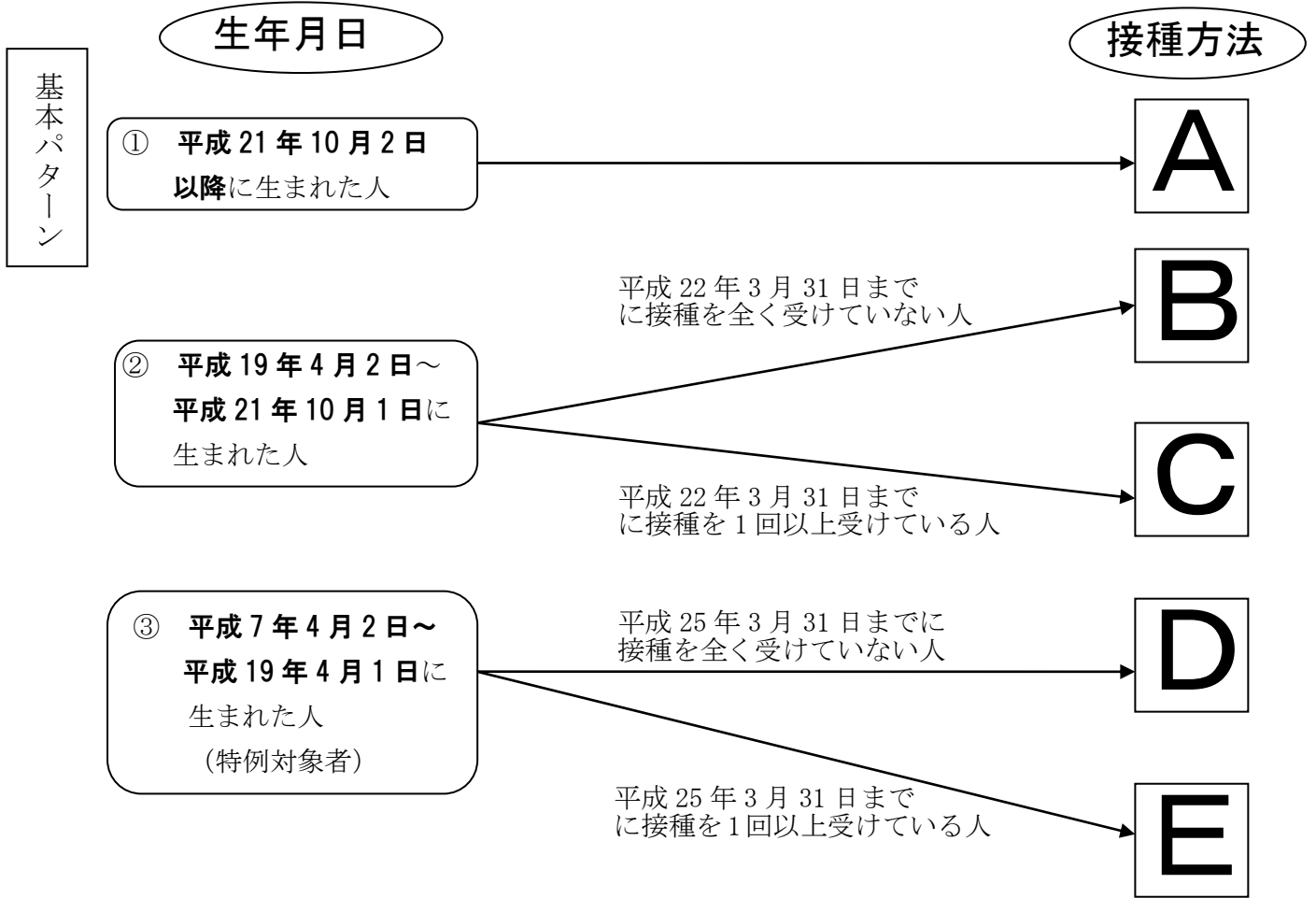
- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）

※ 平成20年度から平成24年度まで行われていた、3期（対象者：中1）及び4期（対象者：高3）の定期予防接種は終了しました。

7 日本脳炎ワクチン

【日本脳炎接種スケジュールフロー図】

不活化



※ 接種年齢により委託料が異なるため、1期の接種を生後90か月を超えて行う場合には、接種券に【特例】の記載が必要です。

基本パターン	A	区分	対象年齢	前回接種との接種間隔
		1期初回1回目	生後6か月	—
		1期初回2回目	から90か月に至るまで	6日以上
		1期追加		6か月以上
	2期	9歳以上 13歳未満	—	

B	区分	対象年齢	前回接種との接種間隔
	1期初回1回目	90か月に至るまで	—
	1期初回2回目		6日以上
	1期追加	9歳以上 13歳未満	6か月以上
2期	9歳以上 13歳未満	6日以上	

C	区分	対象年齢	前回接種との接種間隔
	1期初回1回目	90か月に至るまで	—
	1期初回2回目		6日以上
	1期追加	9歳以上 13歳未満	6日以上
2期	9歳以上 13歳未満	6日以上	

D	区分	対象年齢	前回接種との接種間隔
	1期初回1回目	20歳未満	—
	1期初回2回目		6日以上
	1期追加		6か月以上
2期	9歳以上 20歳未満	6日以上	

E	区分	対象年齢	前回接種との接種間隔
	1期初回1回目	20歳未満	—
	1期初回2回目		6日以上
	1期追加		6日以上
2期	9歳以上 20歳未満	6日以上	

●注意事項

1 対象年齢について

- ・ 「生後 90 か月に至るまで」とは、7 歳 6 か月になる日の前日まで
「13 歳未満」とは、13 歳の誕生日の前日までとなります。

2 接種券について

■ 1 期

- ・ 母子健康手帳別冊に添付しています。
- ・ 1 期を 90 か月齢を超えて行う場合には、接種券に赤字で【特例】の記載が必要です。請求も「特例」の区分で行ってください。
- ・ 接種年齢により委託料が異なるため、特例対象者であっても、「生後 90 か月に至るまで」の人は、接種券に【特例】の記載はせず、通常 1 期としてご請求ください。

■ 2 期・特例 2 期

- ・ 平成 7 年 4 月 2 日～平成 21 年 10 月 1 日に生まれた対象者のうち、母子健康手帳で 1 期の接種歴を確認できない人には、接種前に保健センターで接種券を交付します。
- ・ 平成 7 年 4 月 2 日～平成 21 年 10 月 1 日に生まれた対象者のうち、母子健康手帳で 1 期の接種歴が確認できる人は、医療機関設置の接種券を使用できます。接種券の「1 期の接種歴確認済」に✓してください。
- ・ 平成 21 年 10 月 2 日以降に生まれた人は、1 期の接種歴にかかわらず 9 歳以上 13 歳未満で接種可能です。接種券の「1 期の接種歴確認済」に✓する必要はありません。

3 予診票について

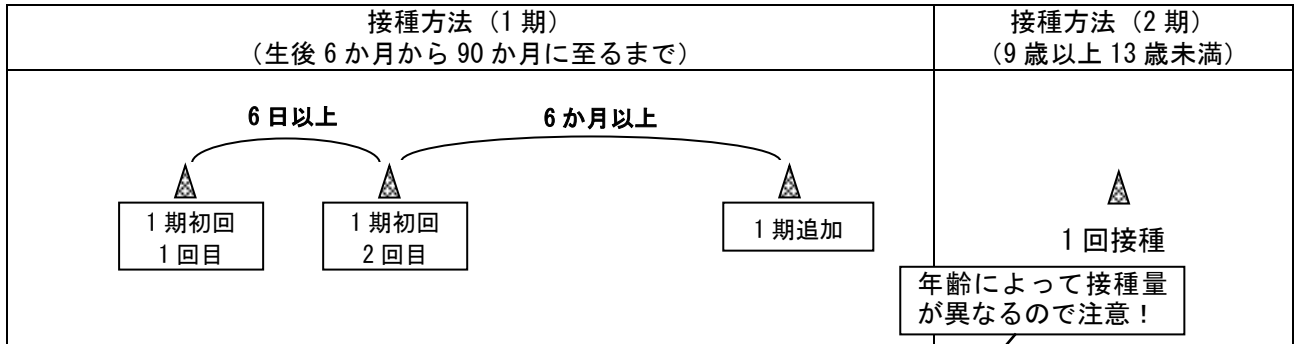
- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）
- ・ 13 歳未満接種用と 13 歳以上接種用があるので、被接種者の年齢に応じて使い分けてください。

4 保護者の同伴について

- ・ 13 歳未満の人は、保護者の同伴が必要です。
- ・ 13 歳以上の人で、接種時に保護者が同伴しない場合は、予診票中の指定箇所へ、保護者の署名と記載が必要です。

A

〈対象者〉
①平成 21 年 10 月 2 日以降に生まれた人

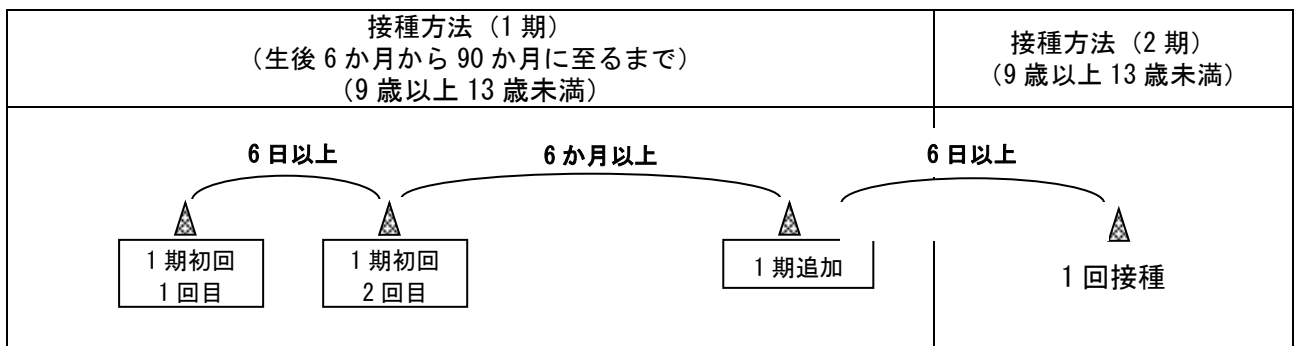


ワクチン 日本脳炎ワクチン (3 歳未満は 0.25 ml、3 歳以上は 0.5 ml)

対象疾病	区分	実施規則で定められた接種間隔と回数	法施行令で定められた期間 (無料接種期間)	標準的な (望ましい) 接種時期・方法
日本脳炎	1 期	初回	生後 6 か月～90 か月に至るまで (満 90 か月齢になる日の前日まで)	3 歳 6 日から 28 日までの間隔をおく
		追加		1 期初回 (2 回) 終了後、6 か月以上の間隔をおいて 1 回
	2 期	1 回	9 歳以上 13 歳未満 (13 歳の誕生日の前日まで)	9 歳

B

〈対象者〉
②平成 19 年 4 月 2 日～平成 21 年 10 月 1 日に生まれた人のうち、平成 22 年 3 月 31 日までに接種を全く受けていない人



C

〈対象者〉

②平成19年4月2日～平成21年10月1日に生まれた人のうち、平成22年3月31日までに接種を1回以上受けている人

平成22年3月31日までの接種回数	残りの接種回数	接種方法(1期) (生後6か月から90か月に至るまで) (9歳以上13歳未満)	接種方法(2期) (9歳以上13歳未満)
1回	3回		 (1期の接種から6日以上の間隔)
2回	2回		
3回	1回	—	

D

〈特例対象者〉

③平成7年4月2日～平成19年4月1日に生まれた人のうち、平成25年3月31日までに接種を全く受けていない人

接種方法(1期) (20歳未満)	接種方法(2期) (9歳以上20歳未満)

E

〈特例対象者〉

③平成7年4月2日～平成19年4月1日に生まれた人のうち、平成25年3月31日までに接種を1回でも受けた人

平成25年3月31日までの接種回数	残りの接種回数	接種方法(1期) (20歳未満)	接種方法(2期) (9歳以上20歳未満)
1回	3回		
2回	2回	—	
3回	1回	—	

※ 接種勧奨差し控えの影響で、1期接種の1回目と2回目の間隔が5年以上空いている場合は、2期の接種は1期の接種からおおむね1年の間隔をおいて接種することが望ましいとされています。

8 子宮頸がん予防ワクチン

ワクチン	接種方法・接種間隔	不活化
サーバリックス 0.5mℓ	<p>1か月以上 2か月半以上 1回目から5か月以上</p>	
ガーダシル 0.5mℓ	<p>1か月以上 3か月以上</p>	
年齢	小学6年生～高校1年生相当	
ワクチン	子宮頸がん予防ワクチン (0.5mℓ)	

法施行令で定められた期間 (無料接種期間)	使用ワクチン	実施規則で定められた接種間隔	標準的な(望ましい)接種時期・方法
小6～高1相当の女子 (小6の4月1日～高1の3月31日)	サーバリックス	2回目:1回目の接種から1か月以上の間隔をおいて接種。 3回目:1回目の接種から5か月以上かつ、2回目から2か月半以上の間隔をおいて接種。	中学1年生の時 2回目:1回目の接種から1か月の間隔をおく 3回目:1回目の接種から6か月の間隔をおく
	ガーダシル	2回目:1回目の接種から1か月以上の間隔をおいて接種。 3回目:2回目の接種から3か月以上の間隔をおいて接種。	中学1年生の時 2回目:1回目の接種から2か月の間隔をおく 3回目:1回目の接種から6か月の間隔をおく

● 注意事項

ワクチンの選択

- 1回目の接種の際には、2種類のワクチンがあることを説明したうえで、接種医と保護者で相談し、どちらのワクチンにより接種を行うかを決めてください。3回とも同じワクチンを接種します。

保護者の同伴

- 13歳未満の者は、保護者の同伴が必要です。
- 13歳以上の者で、接種時に保護者が同伴しない場合は、予診票中の指定箇所へ、保護者の署名と記載が必要です。また、ワクチン選択欄で、どちらのワクチンを接種するかを確認してください。2回目、3回目の接種時は、接種すべきワクチンと、保護者同意書に記載されているワクチンが異なっている場合は、保護者に確認してください。

● 接種券

- 医療機関に設置(各所属医師会の指定の方法で入手)
- 接種券は、これまでの本人の接種回数(自費での接種、助成制度での接種を含む)の券を使用してください。
- 使用したワクチン(サーバリックス又はガーダシル)及びこれまでの接種歴を記入してください。

● 予診票

- 医療機関に設置(各所属医師会の指定の方法で入手)

9 インフルエンザワクチン

不活化

▲
1回

年齢	・ 65 歳以上の者 ・ 60～64 歳で、心臓・腎臓、呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有し、身体障害者手帳 1 級に相当する者
ワクチン	インフルエンザワクチン 0.5 ml
自己負担金	1,600 円 ※

- ※ **自己負担金免除対象者**
対象年齢に該当する者で
- ・ 生活保護世帯に属する者
 - ・ 市・県民税所得割非課税世帯に属する者

対象疾病	実施規則で定められた回数	法施行令で定められた期間 (無料接種期間)	接種時期
インフルエンザ	毎年度 1 回	・ 65 歳以上の者 ・ 60～64 歳で、心臓・腎臓、呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有し、身体障害者手帳 1 級に相当する者	10 月中旬※～1 月 31 日 ※開始時は別途通知

● 注意事項

自己負担金

- ・ 自己負担金 1,600 円を接種時に徴収してください。
- ・ 「60～64 歳で、心臓・腎臓、呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有し、身体障害者手帳 1 級に相当する者」が接種した場合は、請求時に身体障害者手帳の写し又は「予防接種法施行規則第 2 条の 2 該当者確認書」を添付してください。
- ・ 自己負担金免除対象者からは 1,600 円を徴収しないでください。
- ・ 自己負担金免除対象者の確認書類は接種日当日に確認してください。徴収後に広島市から自己負担金を返還することはできません。

自己負担金免除対象者の確認書類

- ・ 自己負担金免除対象者であることが確認できる書類は以下のとおりです。請求時に確認書類は添付する必要はありません。
- (1) 生活保護世帯に属する方・・・「被保護者証明書（夜間・休日等受診用）」
- (2) 市民税の所得割非課税世帯に属する方・・・

「市・県民税課税台帳記載事項証明書（税額用）」（世帯全員分） ※

※ 市・県民税課税台帳記載事項証明書の代用となる書類

- ① ご自宅へ送付された「介護保険料納入通知書」（所得段階が第 1～3 段階の方であれば、市民税所得割非課税世帯に属する方に該当します。書類は 6 月 30 日時点で 65 歳以上の方へ、8 月上旬に送付されます。4 月に送付されたものは使用できません。）
 - ② 後期高齢者医療限度額適用・標準負担額減額認定証（若草色）
 - ③ 介護保険負担限度額認定証（ピンク色）
 - ④ 介護保険特定負担限度額認定証（特別養護老人ホームの要介護旧措置入所者に関する認定証）（オレンジ色）
 - ⑤ 介護保険利用者負担額減額・免除等認定証（特別養護老人ホームの要介護旧措置入所者に関する認定証）（レモン色）
 - ⑥ 社会福祉法人等利用者負担軽減確認証（社会福祉法人等による利用者負担の軽減制度）（空色）
 - ⑦ 中国残留邦人等支援給付に係る本人確認証（白色）
- 名義人以外にほかの世帯構成員がいる場合は、全員分の市・県民税課税台帳記載事項証明書が必要です。

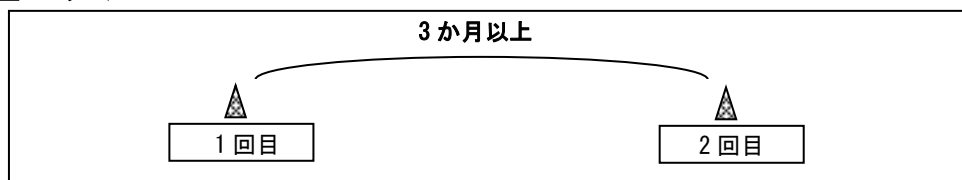
● 接種券

- ・ 予診票から切り取って使用してください。

● 予診票

- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）

10 水痘ワクチン



年齢	生後12か月～36か月に至るまで（1歳、2歳）
----	-------------------------

ワクチン	水痘ワクチン0.5mℓ
------	-------------

対象疾病	法施行令で定められた期間 （無料接種期間）	実施規則で定められた 接種間隔と回数	標準的な（望ましい） 接種時期・方法
水痘	生後12か月～36か月に至るまで （1歳の誕生日の前日から 3歳の誕生日の前日まで）	3か月以上の間隔をおいて 2回	1回目：生後12か月から15か月に達するまで 2回目：1回目接種後、6か月から12か月まで の間隔をおく

● 注意事項

定期接種の対象外となる者

- ・ 過去に水痘に罹患したことがある者
- ・ 定期予防接種の対象外となる接種により健康被害が生じた場合、法に基づく補償の対象になりません。

● 接種券

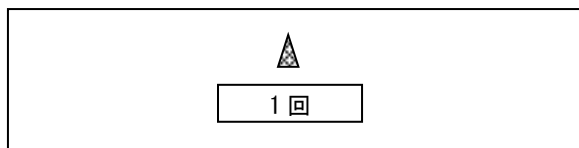
- ・ 母子健康手帳別冊に添付しています。

● 予診票

- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）

11 高齢者肺炎球菌ワクチン

不活化



年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・ 65歳の者（令和6年度から実施） ・ 60～64歳で、心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有し、身体障害者手帳1級に相当する者 <p>【令和2年度から令和5年度までの経過措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度内に65、70、75、80、85、90、95、100歳を迎える者
----	---

ワクチン	高齢者肺炎球菌ワクチン（ニューモバックスNP）0.5mℓ	プレベナー13は使用できません。
------	------------------------------	------------------

自己負担金	4,600円 ※
-------	----------

※ 自己負担金免除対象者

対象年齢に該当する者で、生活保護世帯に属する者及び市・県民税所得割非課税世帯に属する者

対象疾病	実施規則で定められた回数	法施行令で定められた期間	接種時期
高齢者の肺炎球菌感染症	1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 65歳の者※（令和6年度から実施） ・ 60～64歳で、心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有し、身体障害者手帳1級に相当する者 <p>【令和2年度から令和5年度までの経過措置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度内に65、70、75、80、85、90、95、100歳を迎える者※ 	7月1日※ ～3月31日 ※開始時は別途通知

(注) 定められた対象年度（1年度のみ）以外の接種は、定期接種として扱われません。

※ 対象者の生年月日

【令和元年度】	【令和2年度】	【令和3年度】
昭和29年4月2日～30年4月1日	昭和30年4月2日～31年4月1日	昭和31年4月2日～32年4月1日
昭和24年4月2日～25年4月1日	昭和25年4月2日～26年4月1日	昭和26年4月2日～27年4月1日
昭和19年4月2日～20年4月1日	昭和20年4月2日～21年4月1日	昭和21年4月2日～22年4月1日
昭和14年4月2日～15年4月1日	昭和15年4月2日～16年4月1日	昭和16年4月2日～17年4月1日
昭和9年4月2日～10年4月1日	昭和10年4月2日～11年4月1日	昭和11年4月2日～12年4月1日
昭和4年4月2日～5年4月1日	昭和5年4月2日～6年4月1日	昭和6年4月2日～7年4月1日
大正13年4月2日～14年4月1日	大正14年4月2日～15年4月1日	大正15年4月2日～昭和2年4月1日
大正9年4月1日以前	大正9年4月2日～10年4月1日	大正10年4月2日～11年4月1日
【令和4年度】	【令和5年度】	【令和6年度以降】
昭和32年4月2日～33年4月1日	昭和33年4月2日～34年4月1日	接種日に65歳の者
昭和27年4月2日～28年4月1日	昭和28年4月2日～29年4月1日	
昭和22年4月2日～23年4月1日	昭和23年4月2日～24年4月1日	
昭和17年4月2日～18年4月1日	昭和18年4月2日～19年4月1日	
昭和12年4月2日～13年4月1日	昭和13年4月2日～14年4月1日	
昭和7年4月2日～8年4月1日	昭和8年4月2日～9年4月1日	
昭和2年4月2日～3年4月1日	昭和3年4月2日～4年4月1日	
大正11年4月2日～12年4月1日	大正12年4月2日～13年4月1日	

● 注意事項

定期接種の対象外となる者

- ・ 高齢者肺炎球菌ワクチン（ニューモバックスNP）を接種したことがある者。
ただし、プレベナー13の接種を受けたことがある者は、ニューモバックスNPによる定期接種を受けることができます。
- ・ 定期予防接種の対象外となる接種により健康被害が生じた場合、法に基づく補償の対象になりません。

使用ワクチンについて

- ・ 平成26年10月時点では、定期予防接種に使用できるワクチンは、ニューモバックスNP（23価肺炎球菌荚膜ポリサッカライドワクチン）のみです。プレベナー13（沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン）については、現在のところ定期予防接種に使用できません。

65歳未満の対象者の確認について

- ・ 「60～64歳で、心臓、腎臓、呼吸器の機能の障害又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害を有し、身体障害者手帳1級に相当する者」が接種を希望する場合は、身体障害者手帳などにより、対象者であることを確認してください。
- ・ 請求時には、接種券に、身体障害者手帳の写し又は「予防接種法施行規則第2条の2該当者確認書」を添付してください。

自己負担金

- ・ 自己負担金4,600円を接種時に徴収してください。
- ・ 自己負担金免除対象者（対象年齢に該当する者で、生活保護世帯に属する者及び市・県民税所得割非課税世帯に属する者）からは、4,600円を徴収しないでください。
- ・ 自己負担金免除対象者の確認書類は接種日当日に確認してください。徴収後に広島市から自己負担金を返還することはできません。

自己負担金免除対象者の確認書類

- ・ 自己負担金免除対象者であることが確認できる書類は以下のとおりです。請求時に確認書類は添付する必要はありません。

(1) 生活保護世帯に属する方・・・「被保護者証明書（夜間・休日等受診用）」

(2) 市民税の所得割非課税世帯に属する方・・・

「市・県民税課税台帳記載事項証明書（税額用）」（世帯全員分） ※

※ 市・県民税課税台帳記載事項証明書の代用となる書類

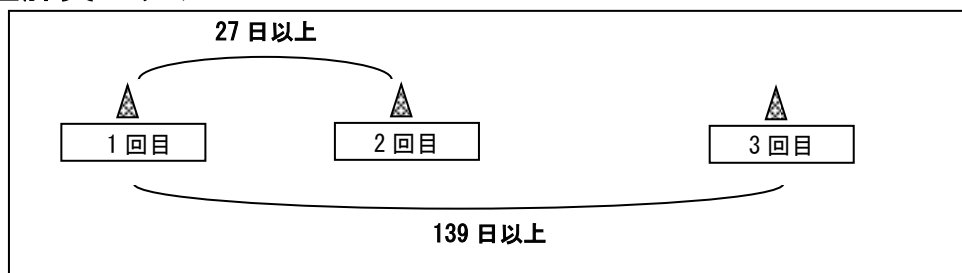
- ① ご自宅へ送付された「介護保険料納入通知書」（所得段階が第1～3段階の方であれば、市民税所得割非課税世帯に属する方に該当します。書類は6月30日時点で65歳以上の方へ、8月上旬に送付されます。4月に送付されたものは使用できません。）
- ② 後期高齢者医療限度額適用・標準負担額減額認定証（若草色）
- ③ 介護保険負担限度額認定証（ピンク色）
- ④ 介護保険特定負担限度額認定証（特別養護老人ホームの要介護旧措置入所者に関する認定証）（ピンク色）
- ⑤ 介護保険利用者負担額減額・免除等認定証（特別養護老人ホームの要介護旧措置入所者に関する認定証）（オレンジ色）
- ⑥ 社会福祉法人等利用者負担軽減確認証（社会福祉法人等による利用者負担の軽減制度）（空色）
- ⑦ 中国残留邦人等支援給付に係る本人確認証（白色）

● **接種券及び予診票**

- ・ 接種券は、予防接種券（甲）（委託料請求用）と予防接種券（乙）（高齢者肺炎球菌ワクチン接種済証）で構成されています。接種済証はこの予防接種を受けたことを証明するものなので、接種後に必ず被接種者へお渡しください。
- ・ 65歳以上の対象者の住民登録している住所に送付します。
ただし、広島市の高齢者肺炎球菌ワクチン接種費用助成制度を使用して接種した者へは送付されません。
- ・ 65歳未満の対象者については、広島市で把握することができないため、接種券等が送付されません。対象者が接種を希望される際は、事前申請が必要です。申請後、接種券と予診票を送付します。
- ・ 接種券を持っている人であっても、過去に任意接種を受けている場合がありますので、接種歴を十分に確認してください。（過去に接種歴がある人は、接種により健康被害が生じた場合、法に基づく補償の対象になりません。）
- ・ 予診のみとなった場合、次回の接種の際の予診票は、白紙のものをコピーするか、広島市ホームページからダウンロードして使用してください。

不活化

12 B型肝炎ワクチン



年齢	1歳に至るまで
ワクチン	B型肝炎ワクチン 0.25 ml

対象疾病	法施行令で定められた期間 (無料接種期間)	実施規則で定められた 接種間隔と回数	標準的な(望ましい) 接種時期・方法
B型肝炎	1歳に至るまで (1歳の誕生日の前日まで) ただし、平成28年4月1日 以後に出生した者に限る。	3回接種。 2回目：1回目から27日以上の間隔をおく。 3回目：1回目から139日以上の間隔をおく。	生後2か月から9か月に 至るまでの間

● 注意事項

定期接種の対象外となる者

- ・ 母子感染予防の対象者として、健康保険の給付によりB型肝炎ワクチンを接種した者
- ・ 定期予防接種の対象外となる接種により健康被害が生じた場合、法に基づく補償の対象になりませ
ん。

● 接種券

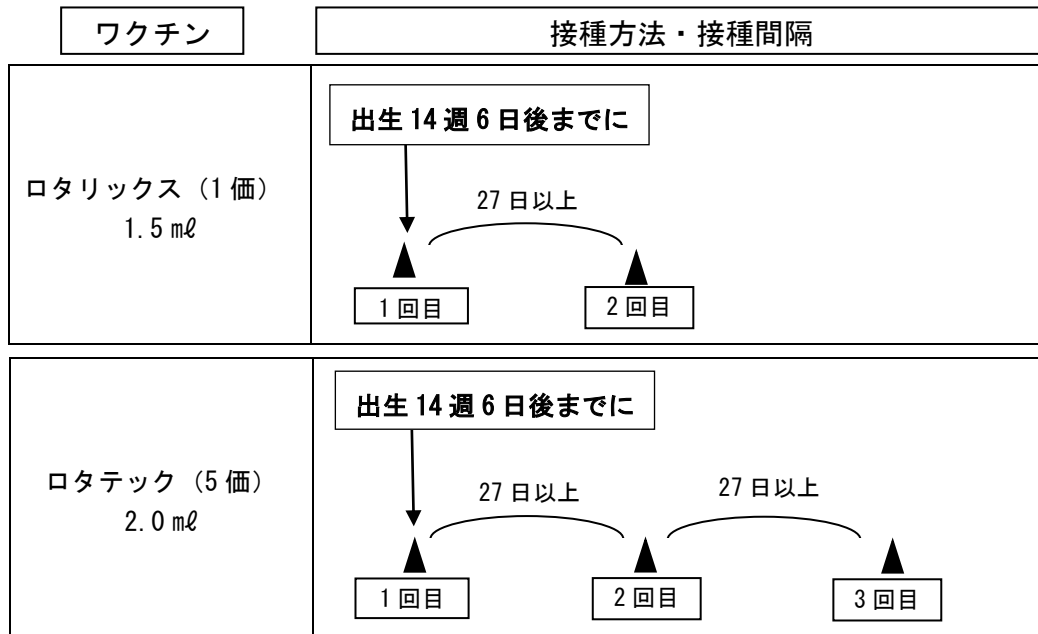
- ・ 母子健康手帳別冊に添付しています。

● 予診票

- ・ 医療機関に設置(各所属医師会の指定の方法で入手)

12 ロタウイルスワクチン

経口生



使用ワクチン	法施行令で定められた期間 (無料接種期間)	実施規則で定められた 接種間隔と回数	標準的な (望ましい) 接種時期・方法
ロタリックス	出生 6 週 0 日後 ～24 週 0 日後まで	27 日以上の間隔を おいて 2 回経口接種	1 回目の接種は、生後 2 か月 に至った日から出生 14 週 0 日までの間
ロタテック	出生 6 週 0 日後 ～32 週 0 日後まで	27 日以上の間隔を おいて 3 回経口接種	1 回目の接種は、生後 2 か月 に至った日から出生 14 週 0 日までの間

※令和 2 年 8 月 1 日以後に出生した者に限る。

● 注意事項

接種時期

- 出生 15 週 0 日以降の 1 回目の接種は腸重積のリスクが高まる可能性があることから、推奨されていません。出生 14 週 6 日後までに 1 回目の接種を行ってください。

任意でロタウイルスワクチンを接種している場合

- 任意で令和 2 年 9 月 30 日までに、ロタウイルスワクチンを接種した者については、接種済みの回数を除いた回数について、定期予防接種により接種を行う。

ワクチンについて

- 原則として、いずれか同一の製剤で接種を完了する。予防接種券の半券 (乙券)、母子健康手帳には、ワクチン (製剤) の種類を記載することとする。

【例外】他自治体等で 1 回目と 2 回目に異なる製剤を接種している場合は、前回の接種と同様のワクチンを接種して完了することとする。

(1) ①ロタリックス ②ロタテック → ③ロタテック を接種して完了

(2) ①ロタテック ②ロタリックス → ③ロタリックス を接種して完了

→(2)の接種の場合、事前に健康推進課にご連絡ください。

吐き出した場合の対応

- 経口投与後に接種液を吐き出したとしても追加の投与は行わない。

● **接種券**

- ・ 対象者へ送付又は母子健康手帳別冊（令和3年4月交付分から）に添付します。
- ・ 任意接種を含めた本人の接種回数の接種券を使用してください。

● **予診票**

- ・ 医療機関に設置（各所属医師会の指定の方法で入手）